

執筆者紹介

1. 氏 名： 遠 藤 司 (えんどう つかさ) Tsukasa ENDO, Ph.D.

学 歴： 1986年 東京大学教育学部教育心理学科卒業

1988年 東京大学大学院教育学研究科修士課程修了

1993年 東京大学大学院教育学研究科博士課程満期退学

現 職 駒澤大学総合教育研究部教職課程部門教授 (教育学博士)

研究テーマ： 障害の重い子どもの教育方法、授業者の成長のとらえ方の研究

主要業績： 2006年・『重障児の身体と世界』風間書房 (博士学位請求論文を補筆・修正したもの)

2010年・『実感から関係化へ—ある重度重複障害者と関わって—』春風社

2015年・「言葉を『語る』 ことに関する一考察—一人の重度・重複障害者との関わりから学ぶ—」(『学ぶと教えるの現象学研究十六』 pp.1-14)

2016年・「『自分らしさ』、『自立』に関する一考察—ある一人の障害の重い人との関わりから学ぶ—」(『駒澤大学教育学研究論集』第32号 pp.39-78)

2017年・「新たな『気分』を生きるための言葉—ある一人の重度・重複障害者との関わりをもとに考える—」(『学ぶと教えるの現象学研究十七』 pp.1-13)

2017年・『言葉への道—障害の重い人たちの事例研究集』春風社

2. 氏 名： 小 澤 豊 (おざわ ゆたか) Yutaka OZAWA, M.A.

学 歴： 1999年 東北大学教育学部学校教育学科卒業

2002年 東北大学大学院教育学研究科修士修了

職 歴： 2002年 法務教官として東北少年院 (仙台市) に採用

以後、福島刑務所での統括矯正処遇官 (教育担当)、置賜学院 (現在は廃庁) での統括専門官 (教務担当) を経て

現在、仙台少年鑑別所庶務課長として勤務

研究テーマ： 現象学的アプローチによる矯正教育の実践研究

主要業績： 2005年・「教育実践報告 被害者を感じ受ける矯正教育の在り方について」『教育思想32号』

2007年・「第三者に立つ矯正教育」『リフレクション 臨床教育人間学2』

2015年・「反転と重ね合わせの技法へ」『学ぶと教えるの現象学研究16』

2015年・「『既知の関係』から『未知の関係』へ—TEA (複線径路等至性アプローチ) を用いた知己関係指導の分析と今後の展望」『矯正教育研究61号』日本矯正教育学会

2017年・「向かい合わせから山なりのパスへ」『学ぶと教えるの現象学研究17』

3. 氏 名： 井 谷 信 彦 (いたに のぶひこ) Nobuhiko ITANI

学 歴： 2003年 京都大学教育学部教育科学科卒業
2005年 京都大学大学院教育学研究科修士課程修了
2008年 京都大学大学院教育学研究科博士課程 研究指導認定退学
現 在 武庫川女子大学文学部講師 博士 (教育学)

研究テーマ：即興×教育、教育者のタクト、現象学×教育学、ボルノウの教育思想

主要業績： 2019年・「直観の起源としての「語りえないもの」——詩歌と「言語の外」に関するボルノウの思想」『教育学研究論集』第14号 (近刊)
2018年・「遊びで満たされた学びの舞台? ——主体性の育成とパフォーマンスな学び」尾崎博美・井藤元 (編)『ワークで学ぶ教育課程論』ナカニシヤ出版
2017年・「教師のタクトと即興演劇の知——機知と機転の臨床教育学序説」矢野智司・西平直 (編)『臨床教育学——教職教養講座第3巻』協同出版
2017年・「問いの螺旋へ——東日本大震災と教育哲学者の語りの作法」山名淳・矢野智司 (編)『災害と厄災の記憶を伝える——教育学は何ができるのか』勁草書房
2015年・「風景芸術と教育の「再生」——建てること、住まうこと、制作すること」『理想第694号——特集 教育・臨床・哲学のアクチュアリティ』理想社
2013年・『存在論と宙吊りの教育学——ボルノウ教育学再考』京都大学学術出版会

4. 氏 名： 田 端 健 人 (たばた たけと) Taketo TABATA, Ph.D.

学 歴： 1992年 東京大学教育学部学校教育学科卒業
1994年 東京大学大学院教育学研究科修士課程修了
1999年 東京大学大学院教育学研究科博士課程修了 (教育学博士)
現 在 宮城教育大学教育学部教授
2017-2018年 ハワイ大学客員研究員

研究テーマ：教育実践哲学、災害と学校の研究、現象学的方法に関する研究

主要業績： 2012年・「『遊びの高度化』としての島小実践—ホイジンガを導きとして—」横須賀薫編『斎藤喜博研究の現在』春風社,pp.299-355.
2012年・『学校を災害が襲うとき—教師たちの3・11—』春秋社
2017年・“Einen sicheren Ort schaffen: Warum wir in Miyagi mit Kindern philosophieren”, *Polylog: Zeitschrift für interkulturelles philosophieren*, 37, S.37-S.53.
2017年・「故郷喪失時代のタウンミーティング—福島県飯舘村を事例として—」実存思想協会編『アーレントと実存思想』理想社,pp.57-76.
2018年・「震災後の地域と若者」『教育社会学研究』第102集,pp.103-124.
2018年・「『ヒューマニズム』を超える思考と行為—ハイデガーとアーレントにおける『パイドイア』概念」『Heidegger-Forum』第12号,pp.17-33.

5. 氏 名： 神 林 哲 平 (かんばんやし てっぺい) Teppei KAMBAYASHI, M.A.

学 歴： 2002年 早稲田大学人間科学部人間基礎科学科卒業

2017年 明星大学通信制大学院教育学研究科博士前期課程修了

現 在 早稲田大学系属早稲田実業学校初等部教諭

早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程 在学中

研究テーマ：「きく」ことの現象学、教育方法学、質的研究法

主要業績： 2015年・『「きく」ことからの学び—友達も自分も好きになる教育をめざした20のアイデア』文藝書房

2017年・『音の教育がめざすものは何か—サウンド・エデュケーションの目標と評価に関する研究』大学教育出版

2018年・「教育をめぐる『きく』ことの諸様相の現象学的探究 序説」『早実研究紀要』第52号, pp.91-105.

・「J=ダルクローズにおける『きく』ことの諸様相の現象学的探究—アイディ『聴くことと声：音の諸現象学』を手がかりに」『ダルクローズ音楽教育研究』第42号, pp.1-13.

・『「きく」ことの現象学的探究モデル』『早稲田大学大学院教育学研究科紀要 別冊』26-1号, pp.51-62.

2019年・『早稲田実業学校初等部2015年度5年1組 国語科の全学習指導案と授業記録』インプレスR&D

6. 氏 名： 平 石 晃 樹 (ひらいし こうき) Koki HIRAISHI, Ph.D.

学 歴： 2004年 東京大学教育学部教育学コース卒業

2007年 東京大学大学院教育学研究科教育学コース修士課程修了

2012年 ストラスブール大学大学院哲学研究科マステール2課程修了

2016年 ストラスブール大学大学院人文学研究科博士課程哲学専攻修了 博士(哲学)

現 在 金沢大学人間社会学域学校教育学類准教授

研究テーマ：教育哲学・思想史、現代フランス哲学

主要業績： 2014年・《L'ontologie suppose la métaphysique: l'ontologie lévinassienne dans *Totalité et infini*》『フランス哲学・思想研究』第19号pp.174-182

2015年・「倫理と教え——レヴィナスにおける〈問い〉とその〈無起源〉」『理想』第694号 pp.109-119

2016年・「完璧に道徳的でなければ道徳を教えることはできないのか?——「義務」から考える「理念」としての道徳」井藤元編『ワークで学ぶ道徳教育』ナカニシヤ出版pp.3-15

・《Le statut philosophique de l'enseignement chez Emmanuel Levinas》Thèse de doctorat à l'Université de Strasbourg 340p. (<http://www.theses.fr/2016STRAC020>よりダウンロード可能)

2017年・「思考と外部性——社会を見いだす教育哲学」『教育哲学研究』第116号pp.22-39

7. 氏 名： 福 田 学 (ふくだ まなぶ) Manabu FUKUDA, Ph.D.

学 歴： 1996年 慶應義塾大学文学部文学科仏文学専攻卒業
1999年 慶應義塾大学教職特別課程修了
2001年 東京大学大学院教育学研究科修士課程修了
2007年 東京大学大学院教育学研究科博士課程修了 博士 (教育学)
現 在 新潟大学教育学部准教授

研究テーマ： 発達、否定性、科学 (特に生物学) と哲学の往還、言語

主要業績： 2010年・『フランス語初期学習者の経験解明—メルロ＝ポンティの言語論に基づく事例研究—』 風間書房
2013年・「サルトルと神経科学—『否定』を問題とする脳機能研究についての現象学的考察—」『学ぶと教えるの現象学研究』15巻pp.71-104
・「現象学的存在論に基づく『誤信念課題』の再解釈—『心』の発達における《否定》の意味—」『新潟大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編』6巻1号pp.17-36
2015年・「模倣をめぐる科学と哲学の架け橋—ミラーニューロン説から後期メルロ＝ポンティへ—」『理想』694号pp.120-132
2017年・「ピアジェ発達論における連続性の問題—論理学と心理学の《あいだ》の対立的—
一体関係—」『学ぶと教えるの現象学研究』17巻pp.49-62
・「ヘーゲル『大論理学』から迫る「歴史としての生命」の基準=ゼロ—生物学における時空間次元の問題—」『新潟大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編』10巻1号pp.77-105

8. 氏 名： 小 川 侃 (おがわ ただし) Tadashi OGAWA

学 歴： 1969年 京都大学文学部哲学科哲学専攻卒業
1974年 京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得の上退学。
1996年 『現象のロゴス—構造論的現象学の試み』で博士 (文学) (京都大学) 取得
職 歴： 京都産業大学、広島大学、京都大学、人間環境大学 (学長)、リューネブルク大学客員教授 (ドイツ)、甲子園大学 (学長)、豊田工業大学文系アドヴァイザー、ヒルデスハイム大学客員教授 (ドイツ)。京都大学名誉教授。

研究テーマ： 現象学、雰囲気理論、気の理論、政治理論の現象学的解釈、現象学による古代ギリシア哲学・シェリング・ベルクソン・デュルケム、後期水戸学の再解釈など。

主要業績： 1986年・『現象のロゴス—構造論的現象学の試み』勁草書房
1996年・『自由への構造—現象学の視点からのヨーロッパ政治哲学の歴史』理想社
1997年・(共訳) クラウス・ヘルト『生き生きした現在—時間と自己の現象学』北斗出版
2000年・『風の現象学と雰囲気』晃洋書房 (現在、第一部のみローマ大学で英訳準備中)
2001年・『雰囲気と集合心性』京都大学学術出版会
2004年・『環境と身の現象学—環境哲学入門』晃洋書房
2015年・『ニッコロ・マキアヴェッリと現象学—彼の汚名をすすぐ』晃洋書房

9. 氏 名： 吉 田 章 宏 (よしだ あきひろ) Akihiro YOSHIDA, Ph.D.
- 学 歴： 1960年 東京大学教育学部教育心理学科卒業
1967年 米国イリノイ州立大学大学院博士課程修了Ph.D.の学位取得
- 職 歴： 米国イリノイ大学、コーネル大学、お茶の水女子大学助教授、東京大学助教授・教授、岩手大学教授、川村学園女子大学教授、淑徳大学教授、放送大学客員教授、東京大学名誉教授
- 研究テーマ：現象学的教育心理学、授業、具体と抽象、モデル・類比・比喩、説明と理解、極意
- 主要業績： 1979/1977年・『授業を研究するまえに』明治図書
1980年・「森の出口はどこか?」『教授学研究10』齋藤喜博/柴田義松/稲垣忠彦/吉田章宏編、国土社、8-56
1987年・『学ぶと教える：授業の現象学への道』海鳴社
1995年・『教育の心理：多と一の交響』放送大学教育振興会
2005年・「『説明』を誘う発問と『理解』を誘う発問—ある達人教師の授業実践における発問芸術の現象学的解明—」『淑徳大学大学院社会学研究科研究紀要』第12号、39-82
2009年・「〈教育の極意〉『共に育ちましょう』の教育心理学的考察」『淑徳大学総合福祉学部研究紀要』第43号、71-95
2015年・『絵と文で楽しく学ぶ大人と子どもの現象学』吉田章宏/文、西川尚武/絵 文芸社
2013年・ジオルジ, A.『心理学における現象学的方法：理論・歴史・方法・実践』吉田章宏訳、新曜社